

◀ S · E · L · D · A · A ▶ No.25

平成9年11月20日発行

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室気付

Sophia English Language Department Alumni Association



Plantation

英語学科教授 Fr. Gerald Barry, S.J.

In the summer of 1996 I visited New Orleans, Louisiana, where I was born. New Orleans is a tourists' town famous for its food, "Creole cooking", and its music, jazz. But New Orleans is a city of faded glory. It had been the most prosperous city of the U.S. In the pre-industrialized era, when U.S. wealth came from agricultural products, most of them were shipped through the port of New Orleans. Almost all of the crops were grown on plantations which faced the Mississippi River. Some of the splendid houses which the plantation owners erected still stand and are popular tourist attractions.

The word "plantation" conjures up scenes from *Gone With The Wind*. It has come to symbolize a way of living and an era in the Old South which has passed away. "Plantation" was used by the English to denote any overseas colony. In the 17th century "plantation" came to mean a large agricultural venture directed by an owner/manager. In colonial times it produced crops for export. In the U.S. the plantation system developed in Virginia and soon spread to the Mississippi River Valley. Most plantations specialized in a single crop; on the Mississippi this crop was usually either cotton or sugar cane. By the early 19th century a "Cotton Kingdom" existed with Natchez, Mississippi, as its center. Large plantation houses were built along the banks of the Mississippi, the lands of the plantation being vast tracts of fields that stretched for miles out away from the river. Beautiful residences were built and a plantation style of gracious living came into existence. Owners of these plantations became wealthy and they dominated the social, economic, and political life in the South.

The Civil War ended this way of life. Essential to the plantation system was a slave labor force and the Civil War ended slavery. Most plantations became derelict, but some continued into the 1950's with sharecroppers working the land that had belonged to the plantation owners. But with the advent of laborsaving machinery even sharecroppers were no longer needed.

The plantation in this picture faces the Mississippi River. The river's ever flowing current is broad and strong. As I stood in front of this plantation I thought about how ephemeral the glory of the Plantation Age had been compared to the ever flowing and still most vigorous Mississippi. François Villon (1431-1465) had a similar thought. In his "Ballade des dames du temps jadis" he wonders about what has become of the beauty and charm of those beautiful women who changed the course of western history. His poignant question came to my mind, "Mais ou sont les neiges d'antan?" [Where are the snows of yesteryear?] Just as the Plantation Age has been succeeded by our computer age, so will our computer age pass away and be succeeded by a still unforeseeable and as yet unimaginable age. Perhaps Sophia's mission is to try to make sure that this "new age" will be more humane and happier than the age that is flowing past us.

Barry先生最終講義(予定)

日時: 1998年1月20日(火) 17:00~18:30

場所: L-911 (上智大学中央図書館9階)

タイトル: Some Reflections

講義の後、ソフィアズクラブにおいて懇親会を行います。
どうぞご参加下さい。

「日本に戻ってきて」

東京・長谷川病院勤務

遊佐安一郎 (昭和45年卒)



上智大学を卒業してからもうちょっとで30年になってしまいます。卒業後ニューヨーク州立大学に留学し、そのままニューヨークに居ついてしまい、20数年間、あちらの精神病院で臨床心理士として仕事をしてきました。そして去年の春から日本に戻って、三鷹市にある精神科の病院で患者さんの治療、患者さんの家族の援助、スタッフの教育指導などの仕事をしています。

留学した頃は、日本ではまだまだ遅れているメンタルヘルスの勉強をして日本にその知識を持ち帰ろうかと思っていたのですが、日本ではまだしっかりと仕事をすることがなかったので、アメリカに残れたことはとてもラッキーなことだったようです。大学院を卒業してすぐに日本に帰っても、経験不足で実際にはさほど使いものにならなかったと思います。そして1970年代の後半には、仕事も面白く、生活も楽しくてすっかりアメリカ人的な生活になじんでしまい、ニューヨークが第二の故郷のように感じるようになりました。しかし、1980年代の初頭に、運よく英語科の同級生の石沢雄司君がニューヨークに遊びに来たときに会って、彼が東京で精神科や精神保健関係の出版社を営んでいることを知りました。その後彼と協力して、家族療法や、職場でのストレスマネジメントなどの、日本では新しいさまざまな心の癒しのための方法を日本の精神保健関係者に紹介したり教育したり指導したりする機会に恵まれたこともラッキーだと思います。その結果、今の病院から強いお願いがあり、ニューヨークの仕事のキリをつけて帰国しました。今でも家族はまだカリフォルニア州でアメリカの生活を満喫しているので、(逆)単身赴任者として日本とカリフォルニアの間を行ったり来たりしています。

今では精神病院に入院している患者さんの治療のほかに、企業の従業員のストレスマネジメントなど、幅広いメンタル・ヘルス関係の仕事もさせてもらっています。日本に戻って驚いたことは、最近の精神科を訪れる患者さんの質が20年前のアメリカの若者に随分似てきていることです。うつ状態、不安、摂食障害、覚醒剤などの薬物依存など、心の悩みと密接な関係のある問題で精神科に来る方もとても増えていきます。メンタル・ヘルスやカウンセリングなどに対する偏見も徐々に薄れてきているようで、メンタル・ヘルスの啓蒙、教育に対して興味を持つ一般の人の数も増えてきているようです。それだけに、今の日本でのメンタル・ヘルスの仕事はとてもやりがいのある仕事だと思っています。

ビスクドールに魅せられて…

大坪純子 (旧姓 峯村) (昭和49年卒)



今年は卒業以来23年ぶりに上智のキャンパスを訪れる機会がありました。友人に誘われて初めてオールソフィアンのつどいに参加したのですが、その折に、たまたま滞英中に学んだビスクドールのことを書いて欲しいとお願いされました。

現在、趣味と仕事の両方を兼ねているビスクドール製作は、何となく参加したロンドン郊外での教室以来夢中になってしまい、あちらでカマまで買いこんで帰国まで勉強を重ねました。講師の資格を取り、帰国後は自宅の教室で10人余りの生徒を教える一方で、1年に1～2回の個展を開いて皆さんに見て頂いています。実際帰国後の何年かは英会話スクールの講師とのかけもちで、人形作りの時間もとれず製作も進みませんでした。バブル崩壊のあおりでスクールが倒産し、今はお人形の方に専念しています。

ビスクというのは仏語で「2度焼く」という意味で、19世紀にヨーロッパで作られていたお人形のレプリカです。昔のお人形からとった石膏の型に流し込んだ特殊粘土をカマで焼成し、顔をまつ毛の一本から描いていきます。ドレス用のシルクやアンティークレースも常に山ほどストックしておかねばなりません。材料は殆ど個人輸入で、アメリカ、イギリス等から取り寄せていますが、それらのやりとりも結構楽しんでいきます。主人が単身赴任中のニューヨークを訪れると真先に行くのは、古いドレスやレースの宝庫であるフリーマーケットなのです。ストールのおばさんとおしゃべりをしながら選ぶのは本当に楽しいものです。ただアメリカンイングリッシュは聞き取りにくく苦労します。来年あたりは英国を訪れ、懐かしいクィーンズイングリッシュに浸ってきたいと思っています。

展示会等興味のある方はぜひ御連絡下さい。人形を通じて英語学科卒業生の皆様と再会できればと思っています。

卒業生短信

今回は9月末までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。(本文中では敬称を略しております。ご了承ください。)

◆昭和36年に卒業しました後、商社に34年間勤めました。その内、名古屋に12年間、そして、中国・北京での13年間を含む中国との仕事に20年間と、英語と全く縁のない社会生活を送りました。2年ほど前より、メーカーに勤務させて頂き、またまた北京に駐在しています。商社時代を含めまして4回目で、すでに14年間以上を北京で生活しています。最初の駐在が1979年でしたので、その頃の不自由な生活状態と較べ、何でも手に入ることでできる今とは格段と変化したスピードに驚いています。
高橋健一郎 (昭和36年)

◆1991年春から共同通信社で英文記者として働いています。1997年に第一子(女の子)を出産し、現在育児休業中です。
松井淑乃 (昭和62年卒)

◆英語学科で「秘書英語」と「英文速記」を教えて今年で22年目になります。母校へ出かける日は嬉しくて、準備をしながら学生よりも早く教室で待っています。そして私の学生の頃のように、ベルと同時に授業を始めています。宿題の提出日は厳守です。FAX送付やお母様が持参されることもあります。4月に共著ですが健帛社から【バイリンガル・セクレタリー】(2,000円)を出しました。外資系企業などでお仕事をなさる方々にはとても役に立つテキストです。
鐘ヶ江弓子 [旧姓 栗山] (昭和41年卒)

◆定年には3年ほどありましたが、中・高教員を退職いたしました。実を言いますと、私は英語科というよりはセツルメント科を卒業したのではないかと思っております。還暦になったところで、この原点(?)に戻り、「60才(0才)からの旅立ち」ということで、キリスト教社会福祉専門学校に通学することに致しました。3年間学習して保母の資格を取り、あわよくば更に1年現場で働き、社会福祉士の国家試験を受けるつもりです。でも今は「バイエル」で指

が動かず格闘しています。同期の皆様、一緒にがんばりましょう。

小川和寧 (昭和34年)

◆夫の転勤で、この4月から久々に首都圏にきました。心ウキウキで、学生時代がとても懐かしく感じられます。卒業して10年以上経っても、自分はそんなに変わっていないつもりなのに、周りにはどんどん進んでいるのだなと改めて感じています。以前の土地には7年もいたので、子供2人もだいぶ大きくなり(現在小3と小1)、近所の子供たちに英会話を教えてあげたりして楽しく過ごしていましたが、突然の引っ越しとなり、転勤族の悲哀も感じている今日この頃です。

桜井園子 [旧姓 大平] (昭和59年卒)

◆1991年春転職。1994年春退職、米国シカゴ大学ビジネススクール入学。1996年春MBA取得。1996年British American Tobacco社入社、米国ケンタッキー州勤務。1997年夏マレーシア、クアラルンプールに転勤。1年間勤務の後、日本に転勤になる予定です。
渋谷利久 (昭和62年卒)

◆3月末New Zealand旅行途中、英語科商英サークル(既に消滅)の同期、熊井久善氏(New Zealand三菱自工副社長)に、ウェリントン案内して頂きました。南極を向いた湾の周りの町ウェリントンは、首都とはいえ東京と違い、極めてこじんまりとした中心部と、それにひきかえ山と海の緑と青がこれでもかという程ふんだんに広がる住宅地です。熊井氏曰く、「熱海と伊豆高原が首都になったって感じ。ホテル街、温泉はないけど僕なんか別荘地に住んでいるみたいでしょ。」安くて、安全で、品の良いゴルフ練習場あり、子供も楽しめる乗馬クラブでは丘の上のトレイルあり、南島も晴れば見えるヴィクトリア山ありの「風の町」ウェリントンは、一度は行ったら、どなたでも好きになる町でした。皆様もぜひ旅して下さい。Diamanteが迎えてくれるかも。

門多三恵子 [旧姓 曾根] (昭和48年卒)

◆大阪、アメリカでの生活を終え、11年ぶりに東京の我が家に戻って参りました。3年間、ゆったりとしたアメリカ・オハイオ州での生活にすっかりとけ込んでいたので、速い東京のテンポについて行くのが大変です。
高橋春江 [旧姓 水井] (昭和41年卒)

◆SELDAの会報No.24を読んでおぼろげに、何やら私と関連のある方のお便りが多く、思わずペンを取りました。私は'88年以來アメリカ生活をしておりましたが、出産、日本語教師などで、アツという間の9年間が過ぎてしまいました。この度、夫がフルブライト奨学生としてシカゴ大学から、ここ沖縄へ研究のため「留学」しており、私にとっては久しぶりの日本での生活が始まりました。「日本」とは言っても、今話題になっているので御存知でしょうが、ここ沖縄は私の知っている「日本」とはかなり違うので、毎日新しい発見の繰り返しです。美しくかつ悲しい歴史を持つこの島に住んでいると、中央と地方の違いがあらゆる点でいかに大きいかを思い知らされます。上智はもちろん東京のド真ん中ですが、これからの時代、この「東京」はもっと外へもっとマイノリティーへ目を向けるべきだと感じる今日この頃です。
ネルソン篤子 [旧姓 羽田] (昭和58年卒)

◆昨年7月、20年間勤めた(株)マッキンゼーエリクソンを辞め、準備を進めていましたが、この4月、株式会社情報デザインを設立しました。本社を群馬県片品村に建設中。マルチメディアのコンテンツ制作、イントラネットの情報システムの設計を主業務とします。
笠松 亮 (昭和43年卒)

◆早いもので(株)電通に入社して12年が経ちました。現在テレビ局という部署でテレビ朝日の担当をしています。通常はテレビ朝日の制作する番組に提供スポンサーをつける、いわば番組のセールスマンのような仕事をしているのですが、時にはスポンサーのニーズに応じた番組提案を

放送局に対して行うことも少なくありません。そうして生まれた番組の一つが、この4月からスタートしたトヨタグループ提供の「素敵な宇宙船地球号」(日曜18:30~19:00)で、"地球環境のよりよい未来のために立ち上がった人々"に焦点をあてた海外共同制作のドキュメンタリー番組です。内容が地味なのと、ウラに「サザエさん」と「ナイター中継」という化け物が二匹もいるため視聴率の方は期待できませんが、それなりに意義のある内容なので、少しでも長く続けられればと思っています。是非皆様の感想をお聞かせ下さい。(E-mail: d10550@esq.dentsu.co.jp)

山崎富美雄 (昭和60年卒)

◆商社マンの生活を、日本で6年、インドネシアで5年の、合計11年を何とか過ごし、思うところあってフジテレビジョンに転職して8年目。マスメディアの世界も大変なスピードで変化を続けています。取り残されぬよう気合を入れて頑張っていこうと思っています。

岡村 稔 (昭和54年卒)

◆子育て11年目に突入です。家事と育児に追われる日々は、アカデミックな事とは何の縁も無く、ふと気が付くと、もう子供の方が私よりも知識が多かったりすることもあります。子供の成長を見守る楽しさは、身軽だったときに想像出来なかった素晴らしい感覚ですが、一体私なりの熱心さで励んだ勉強は何の為だったのかしらと疑問を感じるのは年中です。ただ、大学の4年間、その他で身につけた"余分な知識"は、子育てにプラスに働いていることは間違いないと感じます。特に精神面では上智大学で出会った色々な人や考え方が今の私の大きな支えになってくれていると感謝しています。来春は第三子が入園し、わずかながらでも自分の時間が持てるのではと期待しています。これまで小さい子がいるのを理由に"待った"をかけていた学校等の役員の仕事をこなしながら、少しずつ体力と精神力だけの暮らしから抜け出し、頭にも磨きを

かけたいものです。

酒井啓子 [旧姓 西本] (昭和55年卒)

◆今年6月2日、神奈川テレビ(TVK)に出演する幸運に恵まれました。「HANA大国」という昼の番組で、横浜開港祭の記念特別アワーの中で、午後2時13分から12分間横浜港外まで一周する「咸臨丸」船上からの生中継でした。2年前に私が「咸臨丸乗り組み子孫の集い」を主宰した際、取材を依頼したTVKのディレクターが覚えていてくれたおかげで、咸臨丸の子孫として曾祖父・浜口興右衛門のことや、初めて太平洋を横断した幕末軍艦・咸臨丸のエピソードを話してほしい、と招いてくれたのです。私の顔が曾祖父に似ていると言われて、まんざらでもない気分でした。「平成咸臨丸(長崎のハウステンボス所属)に乗って子孫が太平洋を横断するのが夢だ」と質問に答えて発作的に言ってしまいました。ゴルフ、水泳、筋力トレーニングを再開。きわめて体調良好です。

佐々木寛 (昭和34年卒)

◆卒業後12年間Citibankに勤し、現在は仙台で私立女子高校の校長をしております。勿論「使える英語」の為の改革は大いにやっておりますが、上智英語学科卒の教員は居りません。29年前、隣の席で入学試験を受けた笠島先生、そして吉田研作先輩、現役学生に一声お願いします。

松良千廣 (昭和48年卒)

◆自分の卒業式にも出席せずに、1996年1月から6ヶ月間、韓国の延世大学韓国語学堂に語学留学した後、同年8月からはここホノルルでハワイ大学の大学院に進学しています。このESL学科は関連分野(ESL, TESOL, 応用言語学)ではアメリカで一番と言われるだけの教授陣に恵まれ、学術的には非常に満足(& suffering)しています。今は Qualitative interpretive research method, Critical pedagogy, 言語文化帝国主義に関心を持っており、特に日本における Language minority students への教育について

修士論文を書こうかと考えています。また、学校とは少し離れますが、日本と韓国との関係には引き続き関心を抱いており、ハワイで流れる韓国のドラマに勉強を中断されることもしばしばです。もっと私達の代(1991年入学)からの投稿も見られることを期待しています。

(E-mail: takashiy@hawaii.edu)

吉田崇史 (平成8年卒)

◆現在、熊本大学医学部の1年生です。上智在学中は授業をよくさぼる不真面目な生徒でしたが、今のところ無遅刻無欠席で頑張っています。英語学科卒とは言え、アメリカに行ったことがない私でしたが、いずれ向こうの医療の現場に飛び込んでみたいと考えています。

中村賢二 (昭和63年卒)

◆8年間勤めた国際大学を去り、9月初めに研究生としてオランダに移ることになりました。ヨーロッパに住むのは9歳の時以来ですし、住み慣れた浦佐を後にするのも寂しいので期待と不安の入り交じった気持ちです。(E-mail: kaoru_y@hotmail.com)

吉岡 薫 (昭和55年卒)

◆69-52の乙女達へーお元気ですか? 先日、エミの来日を期に、連絡のついた近辺の12人が集まりました。浜離宮を臨んで食事をした後(景色はほとんど見ないでおしゃべりばかり)、話題のゆりかもめで台場地区へ。楽しかったですヨ。さて来年は銀祝。早いですがネー。卒業年度が異なった人も含めて、来年5月末ソフィアンのつどいと SELDAA 総会に全員集合。遠方の方が来られるように(近辺の人も含めて)前夜祭のナイトツアー、パジャマパーティーも考えています。今から御家族・仕事etc.根回しして必ず出席して下さいネ。詳しくは後日連絡。ところで69-50,51の男の子達。銀祝・SELDAA総会会場に必ず来て下さい。

会うのを楽しみにしています。

池沢なるみ (昭和48年卒)

SELDAA 女性セミナー

女性セミナーでは、毎月一回、学内外から講師をお招きして、それぞれご専門の分野の講演をしていただいております。今回は4月から7月までに開催されたセミナーの概要をご報告いたします。

4月23日(水)

岡田仁孝氏 (比較文化学部教授)

「Globalization of Market and Economic Development」

1980年代は、internationalizationの時代でしたが、今はglobalization、つまり、borderlessの時代です。今や我々は時代の分岐点におり、経済面でもより創造的な新しいシステムを取り入れなければならないところにきています。「行革」「ビックバン」といった言葉が毎日新聞・テレビをにぎわし、スローガンだけが一人歩きしているような感じを受けますが、果たして日本は本当に貿易、投資の自由化をおすすめ、教育改革を成し遂げ、明るい21世紀を迎えることができるのでしょうか…。

5月28日(水)

Fr. W. Kos (イエズス会司祭)

「具体的な社会福祉事業について」

Kos先生には具体的な社会福祉事業についての講演をいただきました。現在、先生は友興会(Christmas village)の運営にご尽力なさっています。このChristmas villageは、終戦後のスラム街の子供たち4人を集めてスタートしたのですが、現在は恵まれない子供のための養護施設と、特別養護老人ホームに発展しています。先生はここで、何十人という方々と共に生活していらっしゃいます。なお、友興会に個人的に寄付なさりたい方がおられましたらこちらまでお願いします。

〒123 足立区西新井本町4-13-16 Christmas Village, Fr. W. Kos
電話 03-3890-5291 (なるべく午後7時以降)

また、Kos先生は、不要となった衣料品や食料品を集めて、各地の必要とする方々に送っていらっしゃいます。ご協力して下さる方は、荷物に"Fr. Kos"と明記して、S.J.ハウスの受付まで届けてください。(宅配便でも可。靴と帽子は不可。衣料品は洗濯・修理済みのものを、食料品は賞味期限に注意。)

〒102 千代田区紀尾井町7-1 S.J.ハウス受付 (Fr. Kos)
電話 03-3238-5114

6月25日(水)

中原博之氏 (社団法人海洋開発研究会)

「Invitation to Marine Affairs」

はなばなしい宇宙開発と違って、「海洋開発」という言葉自体が私達には耳慣れないものです。しかし、海は地球の表面の7割を占め、平均の深さは富士山と同じくらい(3,800m)あり、注目されつつあります。石油、マグネシウムや塩等のミネラルなど、重要な資源の宝庫ともなっていますし、波、潮、温度差から生じるエネルギーも無限の可能性を秘めています。水圧などの困難も伴いますが、さまざまな資源が多いために開発の価値は大であるとのことでした。願わくば、美しい珊瑚礁や魚たちの住みかである海の環境を損なわないような海洋開発を望みたいものです。

7月9日(水)

岡留政嗣氏 (NHK日本語センター・チーフアナウンサー)

「ステキなコミュニケーションの為に一わかりやすい話し方あれ?これ?」

「話す」ということは簡単なようでいて、実は非常に難しいものだということを誰もが実感していることと思います。今回は岡留氏にpublic speakingにおけるわかりやすい話し方のポイントをアドバイスいただきました。

(1)ははっきりした発音で、後ろまで届く声で話す。(2)テーマをはっきりさせる(自分の言いたいことをはっきりと理解した上で話す)。(3)抽象的でなく、具体的に話す。(4)"間"を適切にとる(聞く人にとっては頭の中で理解する時間が必要)。(5)自然体で、その人らしく、自分のスタンスで話す。(6)one sentenceを短くする(呼吸の中に収まる長さで)。

<今学期の予定>

- 日時: 原則として毎月第4水曜日 10:30~12:00 ●場所: かつらぎ館地下1階ホール
 ●会費: 3,000円/年、または、500円/1回のみ ●連絡先: 世話人 日岡久美子(49年卒) 03-3775-8988
 ●会計: 三好比呂子(49年卒) 03-3348-0285 渡辺まかや(49年卒) 045-361-4221

- 9月24日(水) Prof. Saadollah Ghaussy (比較文化学部教授)
 テーマ「Central Asia since independence and its geopolitical importance」
- 10月22日(水) Prof. John Clammer (比較文化学部教授)
 テーマ「東南アジアの文学と社会」
- 11月26日(水) 村井吉敬氏 (上智大学アジア文化研究所教授)
 テーマ未定
- 12月10日(水) 吉田研作氏 (英語学科長)
 テーマ「異文化間コミュニケーションと外国語教育」

1997年度定例総会報告

1997年度 SELDAA 定例総会が、今年もオール・ソフィアンズ・デーにあわせて5月25日(日) 午前11時より、上智大学1-101教室にて開催されました。まず、議長に大日方聖信常任委員(昭和62年卒)、書記に池沢なるみ副会長(昭和48年卒)を選出。座間由美子会長(昭和43年卒)の挨拶の後、前年度活動報告がなされました。東郷公徳事務局長(昭和62年卒)より全般的な報告があり、続いて吉田研作英語学科長(昭和47年卒)より寄付講座および先哲奨学金について、佐藤誠一郎常任委員(昭和53年卒)より会報編集について、そして、座間会長より女性セミナーについて、それぞれ現状報告が行われました。さらに、1996年度決算報告および1997年度予算案について竹内り子常任委員(昭和48年卒)から説明と報告がなされ、それぞれ承認されました。最後に、会場の参加者より、同窓生と現役学生との交流の場が欲しい、特に、学生の就職活動にも役立つような機会を設けることは出来ないか、といった意見が出されました。総会終了後、懇親会が行われました。30名ほどが参加し、母校での和やかなひと時を楽しみました。

1996年度 上智大学英語学科同窓会 収支決算書
 自 1996年4月1日 至 1997年3月31日

収入額 16,114,265円
 支出額 3,689,634円
 次年度繰越金 12,424,631円

| 科目 | 予算 | 決算 | 備考 |
|-----------|------------|------------|-----------------------------------------------------------------|
| 収入 | | | |
| 1 繰越金 | 9,497,205 | 9,497,205 | |
| 2 入会金 | 100,000 | 41,000 | 1,000円×41人 |
| 3 会費 | 2,000,000 | 6,564,000 | 永久会員 2万円×264人=528万円 |
| 4 受取利息 | 10,000 | 12,060 | 普通預金、郵便貯金、債権 |
| 合計 | 11,607,205 | 16,114,265 | |
| 支出 | | | |
| 1 名簿作成積立金 | 600,000 | 600,000 | |
| 2 名簿経費 | 50,000 | 0 | |
| 3 会報費 | 1,740,000 | 1,631,518 | 編集・印刷料 805,765 (税込み) 郵送料 736,890 (切手) 発送料 88,863 (封入・周出し) |
| 4 女性セミナー | 180,000 | 180,000 | |
| 5 寄付講座 | 670,000 | 670,000 | |
| 6 総会費 | 100,000 | 64,416 | 資料作成費、懇親会 |
| 7 会費 | 100,000 | 61,340 | 常任委員会運営費 |
| 8 事務処理費 | 400,000 | 482,360 | 印刷代、郵送料、振込手数料、備品・通信費 |
| 9 予備費 | 7,767,205 | 0 | |
| 合計 | 11,607,205 | 3,689,634 | |
| 繰引収支 | | 12,424,631 | 1997年度に繰越 |

1997年度 上智大学英語学科同窓会 予算案
 自 1997年4月1日 至 1998年3月31日

| 科目 | 予算 | 備考 |
|----------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 収入 | | |
| 1 繰越金 | 12,424,631 | 1996年度より繰入 |
| 2 会費 | 2,000,000 | 入会金を含む |
| 3 受取利息 | 10,000 | 普通預金、郵便貯金、債権 |
| 合計 | 14,434,631 | |
| 支出 | | |
| 1 名簿作成積立 | 600,000 | 1997年度発行予定 |
| 2 名簿経費 | 50,000 | 不明リスト作成、発送費、等 |
| 3 会報費 | 2,140,000 | 会報24・25号分 編集・印刷料 850,000 (税込み) 郵送料 800,000 (切手) 発送料 90,000 (封入・周出し) その他 400,000 (振込用紙・はがき印刷代) |
| 4 女性セミナー | 180,000 | 講師への謝礼、交通費 |
| 5 寄付講座 | 670,000 | 講師への謝礼、交通費 |
| 6 総会費 | 100,000 | 資料作成費、懇親会 |
| 7 会費 | 100,000 | 常任委員会 |
| 8 事務処理費 | 150,000 | 郵送料、振込手数料、通信費、消耗品費 |
| 9 予備費 | 10,444,631 | |
| 合計 | 14,434,631 | |

会計監査 菊谷 秀子 (昭和43年卒)
 井坂由美子 (昭和47年卒)

SELDAА 常任委員 (平成9年10月現在)

- 名誉会長 / 吉田 研作 (昭和47年卒)
- 女性セミナー / 安西 徳子 (昭和49年卒)
- 会長 / 座間由美子 (昭和43年卒)
- 常任委員 / 鈴木 達也 (昭和38年卒) 井波 明夫 (昭和39年卒)
- 副会長・事務局長 / 東郷公徳 (昭和62年卒)
- 小林 修 (昭和39年卒) 関 浩一 (昭和39年卒)
- 副会長 / 池沢なるみ (昭和48年卒)
- 石川 雅弥 (昭和40年卒) 斎藤 敬子 (昭和48年卒)
- 会計 / 竹内り子 (昭和48年卒)
- 増田 光 (昭和59年卒)
- 土肥百合子 (昭和48年卒)
- 監査 / 菊谷 秀子 (昭和43年卒) 井坂由美子 (昭和47年卒)
- 会報 / 佐藤誠一郎 (昭和53年卒)
- 大日方聖信 (昭和62年卒)

★新奨学基金設立のお知らせと寄付のお願い★

英語学科は現在「上智大学英語学科先哲奨学金」という名称で「学業成績が良好で、経済的に困窮している上智大学学部学生を対象に、原則として学資金の一部」を給付する奨学金制度を運用しています。本年度も3名の学生にそれぞれ18万円ずつ、合計54万円が支給されました。この奨学金制度は「英語学科旧野口奨学基金全額の寄付を含む上智大学先哲奨学基金の運用利息」を源泉としています。この奨学金制度のさらなる充実をはかるとともに、野口先生以外の先哲であられる今は亡き先生方の名を記念するために、新たに「故フォーブス神父・故メイスン神父・故ハンコック神父記念奨学基金」がこのたび設立されました。この新奨学基金は資金が一定額に達した後に旧野口奨学基金と並んで上智大学英語学科先哲奨学基金の一部として活用されることとなります。つきましては、この新基金設立の趣旨にご賛同戴けますならば、是非ご寄付をお寄せ下さい。ひとりでも多くの方々のご協力をお待ち致しております。寄付金の振込先は下記の通りです。

郵便振替 口座番号: 00170-6412237

口座名称: 上智大学英語学科先哲奨学基金

英語学科長 吉田研作

■異動通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会までお知らせください。また、住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。

今年度末(1998年3月)には3年に一度の同窓会会員名簿の発行(会費納入済みの方に郵送)を予定しておりますので、なお一層の皆様のご協力をお願い申し上げます。

■SELDAより、募集のお知らせ

◆SELDAでは、皆様より、この会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、なんでも結構です。原稿に写真を添えて、あるいは、同封の葉書にご記入の上、お送りください。

◆この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡お待ちしております。

◆1998年2月2日から実施される新郵便番号制度に関して、上智大学専用の郵便番号として「102-8554」、S.J.ハウス専用として「102-8571」がそれぞれ認可されました。

◆Nissel先生から、皆さんと連絡を取りたいので電子メールアドレスを掲載してほしいとのご依頼がありました。

E-mail: nissel@jundai.k-junshin.ac.jp

◆本号は試験的に海外在住者にも発送しました。

上記に関するご応募・お問い合わせは、お気軽にどうぞ。

連絡先: 英語学科事務室/東郷公徳まで

TEL.03-3238-3719 FAX.03-3238-3910 E-mail: t-togo@sophia.ac.jp

■会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。

会費の支払い方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金もあわせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。

(なお、振込用紙は、発送の都合上すべての方に送っておりますので、ご了承ください。)

入会金 : 1,000円

一般会員 : 年会費 2,000円(できれば3年分まとめて)

終身会員 : 一括払い 20,000円

《あなたの会費納入状況》封筒の宛名ラベルの右上をご覧ください。

◆「S」のスタンプが押してあるのは、「終身会員」であることを示しています。

◆「未」のスタンプが押してあるのは、今年度の会費が未納になっていることを示します。

5,000人を超える同窓会会員の会費納入状況のチェックには多大な手間と時間がかかります。チェックの時期と納入の時期が重なったなどのために行き違いがあった場合は何卒ご容赦ください。